

会議概要（要点記録）

1	会議名	南あわじ市子ども・子育て会議（第4回）
2	開催日時	平成26年8月11日（月）午後1時30分～午後4時20分
3	開催場所	南あわじ市役所緑庁舎 2階 第3会議室
4	出席者	<p><委員> 南あわじ市子ども・子育て会議 委員12人（1人欠席）</p> <p><事務局> 少子対策課長、同課長補佐、同主査</p> <p><オブザーバー> 福祉課主幹、学校教育課長、生涯学習文化振興課付課長</p> <p><関係人> 事業計画策定業務委託業者（以下「事業計画委託業者」という。）</p>
5	配付資料	<p>資料1 南あわじ市子ども・子育て支援事業計画作成にかかる「量の見込み」の補正について（案）</p> <p>資料2 南あわじ市子ども・子育て支援事業計画作成にかかる「量の見込み」と「確保方策」（案）</p> <p>資料3 （仮称）南あわじ市子ども・子育て支援事業計画素案のための検討資料</p> <p>資料4 南あわじ市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例（案）【概要】</p> <p>資料5 南あわじ市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例（案）【概要】</p> <p>資料6 南あわじ市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例（案）【概要】</p>
6	会議の概要	<p>1 開 会 少子対策課長が開会 戸江会長があいさつ、進行。</p> <p>2 議 題</p> <p>（1）量の見込みの補正について（資料1）</p> <p>前回提示の「量の見込み」の暫定値を補正した箇所、根拠等について、 から順に事業計画委託業者から資料により説明。</p> <p>会 長：P4、3号認定（0歳）の量の見込み数値、少ないのでは？</p> <p>委 員：潜在するニーズがあると思われる。もう少し増えるのでは？</p> <p>事務局：現在も0歳児利用の問い合わせが増えつつあるので、人口比 3.1%を 6.2%で補正し、ほぼ2倍とする見込みでどうか。</p> <p>委 員：1園に1人ないし2人程度なので妥当では。</p> <p>委 員：賛成。</p>

委員：P14、病児・病後児保育の見込み数は、現在利用実績「0」であるのに多いのでは？

事務局：多すぎる気がしているが、補正する数値の根拠が乏しいため提示した数値が現時点では妥当かと。必要があれば見直しの時期に再検討したい。

会長：淡路3市で考えると聞いていたが、進捗状況は？

事務局：1か所で集約する方法や居宅型も含めて3市で検討中。

委員：西宮市のような人口のところでも中央病院の隣に1か所。ニーズが高いわりに、実績は少ない。1～2カ所あれば充分では？

会長：県立淡路医療センターの事業所内保育所などに打診してみてもは。

事務局：淡路3市で再度協議する。

会長：P15、ファミリー・サポート・センター事業、来年度からの実施に向けて課題は？

事務局：現在、地域密着のファミリーサポートクラブで就学前児童を対象に実施しているので、うまく移行できるものとする。

委員：今回対象となる就学児童については、実績がないが。

委員：子ども（低学年まで）を預けられるコーナーが設けられたイベントに参加したところ、保護者の方に大変好評だった。預かり幅を広くして、普段から気軽に利用できるシステムであればありがたい。

委員：PR不足で知らない人も多いのではないか。幼稚園や保育所など身近なところに、登録等受付の窓口を設置すれば利用者増となるのでは。

会長：就学児童のニーズはあるのか？提供会員への研修は？

事務局：読めない部分もある。他市の例では、児童の送迎ニーズが高い。提供会員への研修は行っている。

委員：参考までに。登録者に対して、より利用しやすいよう提供会員（相互扶助）の空き状況を確認できるようHPで公開している会社のことをテレビで紹介していた。

会長：センター事業の方法については、要検討。

会長：1号認定の人数についてはいかがか？

委員：つかみにくい、難しい数値ではないか。

委員：今、公立幼稚園では全員、午後保育を利用している。14時なら預けないという母親が多い。1号はいないとみるべきでは。

事務局：現在の幼稚園の午後保育は、希望すれば受け入れてもらえて、勤務しているかどうか不明。午前だけの勤務の人がいると考えられる。

委員：2号認定の人が1号を希望する場合もあるし、例えばリストラにあった場合などは1号認定になるので、これくらいの人数は見込んでおいてもよいかもしれない。

委員：サービスがほぼ変わらないということであれば、保育所と幼稚園の料金の差に対

して、かなり不満が出てくるだろう。公立幼稚園と私立幼稚園の差もある。新制度になる機会に統一してほしい。

委員：幼稚園教育も受けられて長時間働くことができるよう、幼稚園か保育所かを選択するのでなく、認定こども園を望む。

会長：1号認定は、このままの数字でいこう。

会長：P18、養育支援訪問事業の見込み数、実績の最大数「9」としたほうがいいのか？

事務局：修正する。

委員：P7、放課後児童健全育成事業について、新たな対象となる4～6年の見込みは多くないか？

会長：他市でも見込量は多く出ている。

委員：学童保育もない地域で社会体育もしていないが、学校行事などにより家にいることは少ない。現実的に高学年の利用は少ないと思う。

委員：少子化の影響で、社会体育に低学年のうちから行く子どもが増えている。4年生の始めは、多少ニーズがあるのでは。

会長：来年度以降、見えにくく読めない部分もあるので、数字はこのままで。

(2) 量の見込みと確保方策について(資料2)

「量の見込み」に見合った確保方策について、記載事業ごとに事務局から資料により説明。

委員：病児・病後児保育について、市の方針、やり方次第で、利用人数は変わってくると思う。

委員：先ほどの西宮市の情報だが、H26年7月現在、病児保育の登録者1,521人に対し、利用平均2.26人で、かなり少ない。

委員：見込み定員6人というのは多すぎる。実際の利用はどうあれ、人数を設定するとその受け皿を用意しなければならなくなる。

委員：大きい病院へ行くよりは、サポートしてくれる人が家に来てくれる方が、子どもにとっても安心。

委員：神戸市では、町医者の方に保育ルームなどを設けて実施している。通常診療と並行して預かってもらえるような、効率の良い方法で進めたほうがよい。保護者も安心では。

会長：大きな課題だが、見直しの29年度には、解消できる取り組みを期待する。

委員：子育て学習・支援センターは間借りではなく、占有できる施設で活動したい。

会長：そう思う。大事なことだ。

(3) 計画の素案について (資料 3)

前回説明のとおり、「基本的な考え方」については、南あわじ市における子どもの育ちや子育てを支援・応援する上において普遍的なものであるため、次世代育成支援行動計画の考え方を踏襲する点等、事業計画委託業者から資料により第 1 章から順に説明。

委員：第 5 章の「計画の目標」が子ども・子育て会議の内容となっており、次世代育成支援行動計画の内容である第 4 章「計画の内容」を網羅できていないので、章立てもしくは表現を修正したほうがいいのではないかな？

会長：そう、少し修正が必要だ。

委員：表現をよりわかりやすく修正した方がいい。「子育てにやさしい理解の促進」？

委員：P 14 の 5 (1) (2) とも「豊かな・・・」となっている。

会長：(1) 豊かな心を育む家庭教育の推進、(2) 生きる力を育む学校教育の推進としてはいかがか。

委員：文字表記で配慮が必要。「障害」を「障がい」「(特別な) 支援を要する」など。

会長：今回の意見を踏まえ、修正を加えた形で次回、再提示のこと。P 10 のキャッチフレーズは、委員で考えてよいアイデアを出していただければありがたい。

(4) 新制度にかかる関連条例の制定について (資料 4、資料 5、資料 6)

制定が必要な 3 つの条例 (案) について、事務局より一括説明。

委員：資料 4 の条例について、設備の基準については定めなくてもよいのか？

事務局：都道府県、政令指定都市等が定めることになっている。

会長：資料 4 11、「保育要領」は「教育・保育要領」に最近変更になったはず。

委員：資料 5 で、調理設備に関わる部分の扱いが最近変更になったのでは？

事務局：経過措置で対応する部分もある。国の基準をもって市の基準とすることから、今後の国の変更にも対応できる形で市議会に上程予定。

3 その他

事務局：市広報 8、9、10 月号にて、新制度の周知のため概要を掲載していく。

今後は、関連する規則等の制定や見直し、島内 2 市との調整、県のヒアリングを予定。次回会議は、9 月末頃から 10 月初旬を目途に調整予定。

4 閉会 高田副会長あいさつ